



ROTARY CLUB OF FUJIMI

富士見ロータリークラブ週報

第2151回例会 令和元年 10月 26日(土)
【富士見ふるさと祭り】 文化の杜

2019-11-1発行

2019~2020年度



国際ロータリー会長マーク・ダニエル・マローニー
『ロータリーは世界をつなぐ』

第2570地区 ガバナー 鈴木秀憲
『つなげる:未来へつなぐ 変化:変える』

【会長】石川 泉
【副会長】尾崎 功
【幹事】奥田功次
【SAA】平岡直也

【会長の挨拶】会長 石川 泉会員

本日はよろしくお願ひ致します。

「ロータリー希望の風」募金活動



輪投げ



スーパーボール掬い



【委員長の挨拶】 桑原福治会員

長時間ご協力、ありがとうございました。募金額も136829円になりました。



第2150回例会 令和元年 10月 11日(金)

【卓話:文 智妍さん】

【会長】石川 泉 【副会長】尾崎 功
【幹事】奥田功次 【副 SAA】浅見隆広

【点鐘】 会長 石川 泉会員
【斉唱】 ロータリーソング「我等の生業」
【ゲスト】 米山記念奨学生 文 智妍さん
【お客様】 R米山記念奨学委員長 島崎義春様

【会長の時間】 会長 石川 泉会員

本日は米山記念奨学会の歴史をお話したいと思ひます。東京RCで1952年11月、古沢丈作会長がある試案を発表しました。それは日本ロータリーの基礎を築き、その発展に偉大足跡を遺した故米山梅吉氏の遺徳を記念して、「米山基金」をつくり、アジア地域の優秀な学生を日本に招いて、2年間研究させようというものでした。この日提出された米山記念奨学金(略称:米山ファンド)設定の主旨の最後の一文にこの構想にける古沢氏の並々ならぬ意気込みを見ることが出来ます「これ実に翁の生前意図されたロータリーの事業の一つであり、われらまたもって翁の遺徳を讃うる無形の金字塔となさんとするものであります」若き日に大志を抱いてアメリカに留学し、実業家として大成してからは、向学心に燃える多くの青年に陰ながら援助の手を差し伸べ、晩年には私財を投げ売って児童教育(小学校設立)に力を注いだ米山梅吉翁。この奨学事業こそ翁の遺志を継ぎ、その功績を永く顕彰するのにふさわしいという確信があったでしょう。12月には米山基金構想はほぼ原案通りに承認されました。早速、米山奨学基金特別委員会が設けられました。それは、委員長となった古沢氏の指揮のもと、総務部、財務部、渉外部、審査部、学事部の5部からなる総勢52名の大規模な組織でした。まず当面の課題は、寄附を募って基金をつくること。会員から1口1,000円以上、企業からは1口1万円以上で任意の寄付を募りました。当時は大卒初任給が8,000円~9,000円の時代。国内の食糧事情もはかばかしくなく、豊かさとはまだほど遠い時代でしたが、事業の主旨は多くの会員の賛同を得、寄附は順調に集まりました。財務部の委員たちの賢明な努力の力があって、個人寄附は目標の170%を超えて2年後には約270万円が集まりました。寄附金集めと並んで、大きな課題となったのは、奨学生の人選です。人選はタイとビルマ(現ミャンマー)から各1人を招くこととし、それぞれバンコクRCとラングーンRCに書簡を送り、ふさ



わし奨学生候補者を選んでくれるように依頼しました。1954年5月の書簡で、バンコクのソムチャード・ラタナチャタさんの名前が東京RCに報告されました。その後、受入れ大学や宿舎探し、ビザの申請、日本までの船の手配が始まりました。そして待ちに待った来日。米山委員会のメンバー全員にとって感動と喜びの瞬間でした。奨学生のソムチャードさんは東京大学農学部の修士に入学、卒業後は帰国してタイの蚕糸局に入局し、タイシルク産に貢献し、重要なポストを歴任したとのことです。その後の人選は、国内に既に留学している留学生の中からの人選に変更になりました。何故、留学生支援なのか。それは「今後、日本の生きる道は平和しかない、それをアジアに、そして世界に理解してもらうには一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕ではないか。」事業創設の背景には当時のロータリアンのこのような思いがありました。それから60年の歳月が流れましたが、民間外交として、世界に平和の種を撒くという事業の使命は一貫して変わっていません。

通常の奨学金プログラム

大学生	10万円	指定校学部 3・4年生 医・歯科・獣医学部 5・6年生
	14万円	指定校の大学院修士課程 1・2年生
博士課程	14万円	指定校の大学院博士課程 2・3年 医・歯・獣医学博士 3・4年生

話はおわかりまして、先日「子どもの夢つなぐ市民運動☆ふじみ」の強調月間の取り組みで鶴瀬駅東口及び西口で街頭宣伝活動を実施致しました。柳田正雄会員を筆頭にたくさんのボランティアの組織が集まり、多くの人が街頭を埋め、チラシやティッシュの配布と募金活動が行われました。市長も率先して参加していました。仕事帰りや学校帰りで駅の利用者は大勢いましたが、通行する人は関心が薄く、ティッシュ入りのチラシを受け取っていただく事さえ、大変難しい状況でした。私は人生68年の中で初めての配布者の経験でした。いろいろ工夫しながらの1時間でしたが、趣旨を伝えてチラシを受け取って頂くという事の難しさを痛感致しました。また、奉仕活動も自分たちだけの考えで良いと思って行動しても、相手がそれを望んでいなければ感謝すらなく迷惑なことになる・・・という事にも通じることを考えさせられました。

【幹事報告】 幹事 奥田功次会員

1) 例会変更の件

- 1. 朝霞キャロットRC
10月21日(月)→例会取消
- 2. 当クラブ



- 10月18日(金) ⇒定款による例会取止め
- 25日(金) ⇒10月26日(土ふるさと祭り)
集合時間 8時 集合場所 現地
駐車場 山室会館と農協
- 11月15日(金) ⇒移動例会にて休会
- 22日(金) ⇒17日(日)環境整備に振替
集合時間 未 場所 すわの森

2) 次の書類を廻覧します

- 1. よねやま記念奨学委員会より豆辞典を会員に配布
ロータリー米山記念奨学生名簿
地区役員名簿・よねやま梅吉記念館報秋号
賛助会員募集広報資料申込書
- 2018年度事業報告書・018年度決算報告書

2. ロータリーリーダーシップ研究会講座案内
Part II (別回覧)

2019年11月23日(土) 点鐘9:45 女性教育会館

- 3. 朝霞RC年度計画書
- 4. 志木RC会報

3) ガバナー月信10月号会員に配布

4) 社会奉仕委員会の炉辺会合開催

10月18日(金) 18:30～
サンライトホール第2集会室

5) 第8回目45周年記念実行委員会開催

10月24日(木) 18:00～ 例会場

6) 第5回理事会議事録は本日発行の会報4頁に掲載

7) ローソンが10月末で閉店になります。

今後の課題として駐車場の件で良案がありましたら願致します。

8) 上期会費の振り込みがまだの方は10月末までによりしく願致します。

【贈呈】 会長 石川 泉会員

10月分の助成金を差し上げます。

又、本日の卓話を宜しく願致します。



【委員長報告】

○社会奉仕委員会⇒幹事 奥田功次会員(代読)

日時 2019年10月26日(土)
場所 富士見市役所 文化の杜
集合時間 午前8時
駐車場 農協第2共犯センター又は山室会館
服装 ロータリーの白のジャンパー、帽子
食事・飲物 事務局が会場で調達
内容 スーパーボール掬い、輪投げ、ラムネ販売

○環境委員会⇒委員長 横田昌則会員

11月17日(日)「すわの森の環境整備」を行います
時間は後日、お知らせいたしますのでご協力を宜しく願致します。



【出席報告】 医院 涌井英樹会員



10月11日	正会員数	免除会員	出席率
	43名	10名	
	出席数	21名	68.42%

【ニコニコBOX報告】 委員長 萩原喜八郎会員

石川 泉会長、奥田功次幹事
秋元伸一郎、尾崎孝好会員
斎藤英雄、坂本元彦会員
下山定夫、長根章浩会員
萩原喜八郎、羽石 隆会員
深谷雅良、山城 盛会員



米山記念奨学委員長 島崎義春様 ようこそ。
奥田功次幹事、尾崎孝好、萩原喜八郎会員
羽石 隆、深谷雅良会員
ムン、ジョンさん、卓話、願致します。
大坪 進、深谷雅良、涌井英樹会員
前回欠席しました。

本日合計¥20,000

【ご挨拶】

R米記念奨学委員長 島崎義春様(行田さくらRC)



本日は卓話者の文さんに同行いたしました。日頃米山のご理解有難うございます。本日はよろしく願致します。

【卓話】 米山記念奨学生 文 智妍さん

私が勉強している心理学の話をしたと思います。臨床心理学科では精神疾患について研究したり、知能検査や性格検査などの心理検査について勉強し、精神科病院や心療内科、クリニックなど、現場で実際どう対応していくかを研究し、勉強する学問です。東京国際大学大学院臨床心理学研究科は日本の精神分析家の第一人者である小此木 啓吾先生と、その弟子にあたる先生たちが中心に、2001年4月に立ち上げられました。フロイトの神経症(Neurosis)は体には何の異常も発見されないけれど、苦痛を感じるということです。つまり、心の問題が身体的に発現されることです。これに関して、フロイトの「ヒステリー研究」に出てくる事例にアンナ.0と呼ばれた患者さんがいました。19世紀当時、ヒステリーは上流層の女性たちに多く現れ、心の葛藤を晴らすことなく、ストレスがたまり、身体的に現れてしまったのです。19世紀当時は、監禁して暴行しあらゆる非人間的な行為を治療として行いました。こんな拷問近い治療法が行われていた時代に、フロイトは神経症の原因は心にあると考えたのです。そして、ヒステリーは心が体に送る信号であり、フロイトはこの無意識を意識化させて解消することが、神経症の治療法だとしました。フロイトは記憶と神経症に関連があると考え、人間の「こころ」に注目した初めての学者で、「こころの研究」を始めます。人間の心を、イド(id) or エス



(Es) 自我(エゴ。ego) 超自我(superego) の3層からなる人格構造を提唱しました。フロイトによると、無意識が意識化される主な現象として、言い間違えと夢を挙げました。

フロイトの夢分析で、夢は記号です。夢の中の人物だったり出来事より、その夢を見たプロセスや背景に注目しなければいけません。



なぜ、夢は象徴的な記号化されるのかというと、無意識は意識が受け入れたくない、もしくは受け入れ難いことを抑圧しておきます。これが夢の中に現れるには、自分をいつわる必要がある。夢分析の症例をひとつご紹介します。このように、カウンセラーと話しをしながら、夢が出来上がった背景を探ることで、患者自らが記憶を想起し、夢の本当の意味を見つけ出すのです。

フロイトの偉大なところは、「人のこころ」を研究の対象にすることを初めて考えたことで、無意識を発見したことです。しかし、それは当時は受け入れられず、排斥されました。フロイトは160年前の人物であり、19世紀当時は科学的な限界もあった時代です。そのような時代に、フロイトの発見は、人間の内面に関する新たな理解をあたえたことから、フロイトの理論は示唆するところが多いです。

【お礼】 会長 石川 泉会員

本日の卓話、ありがとうございました。

【点鐘】 会長 石川 泉会員

例会日	毎週金曜日
時間	12:30~13:30
事務所	〒354-0022 富士見市山室2-10-10 島田ビル201号
電話	049-251-6596 FAX049-252-3848
例会場	島田ビル1F
Eメール	fujimi-rc@nifty.com

会報・IT委員会	週報担当:長根章浩
委員長:長根章浩	副委員長:森田仁一
委員:栗原 平 浅見隆広 涌井英樹 斎藤信夫	